

PRAEVIDENTIA DAILY (6月25日)

昨日までの世界：Carney 総裁はややハト派的な面を見せたが、ポンド押し目買いの好機

昨日は、米経済指標が市場予想を上回った一方、米長期債利回りと株価が反落する中で、米ドルが対主要通貨で概ね反発した。中では、欧州時間以降下落基調となっていた豪ドルやNZドルが、米経済指標の予想比上振れを受けた米ドル高と、株価下落の両方の影響を受けたかたちで、対米ドルで大きく下落した。株価下落と米長期債利回りの低下の背景にはイラクにおける戦闘激化があるようだが、原油価格は殆ど上昇していない。

この間、ポンドは、6月12日以降タカ派発言が続いていた BoE 高官の議会証言では、むしろあまりタカ派的ではない発言が複数聞かれたことから反落し、対ドルで 1.70 ドル台から一時 1.6966 ドルへ下落、ユーロ/ポンドも 0.79 ポンド台から 0.8025 ポンドへ上昇した。昨日の Carney 総裁の発言の中では、「賃金統計が想定していたよりも弱い」と述べた点がハト派的と捉えられたが、その他の発言をみると、12日の発言については「個人の意見だ」としつつも「金融政策委員会の議論と整合的」で、「今年下期に利上げを見込む市場期待は、極めて強いデータに照らすと相対的に低かった」と述べ、市場の利上げ開始時期に関する期待を前倒ししようとした意図的なものであることを肯定しており、米国などと比べてタカ派的である状況に変わりはない。このため、6月12日以降の利上げ前倒し期待が崩れた訳ではなく、ポンドの水準をみても、ポンド/ドルは6月12日の Carney 総裁発言前の水準である 1.68 ドル台前半を依然として大きく上回っており、ユーロ/ポンドも 0.8050 ポンド程度を下回る水準（ポンド高水準）を維持している。

ドル/円は、概ね 102 円割れの水準で推移していた後、米経済指標で消費者信頼感が 85.2、新築住宅販売件数が 50.4 万件と市場予想を上回ったことから米長期債利回りの上昇と共に一時 102 円台乗せとなった。もっとも、その後はイラクにおける戦闘激化報道等を受けて米株価が下落すると、米長期債利回りの反落と共に、ドル/円は再び 102 円割れとなった。なお、安倍首相が発表した成長戦略の内容に目新しさはなく、市場の反応は限定的だった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、運動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.01	-0.01	+0.00	-0.05	-0.05	-0.00	-0.6	+0.0	-0.1	+0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	+0.01	-0.00	-0.01	+0.05	-0.00	-0.05	-0.1	-0.6	+0.3	-0.03
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.00	-0.01	-0.01	+0.04	-0.00	-0.05	-0.2	-0.6		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.6	-0.04	-0.04	-0.01	-0.01	-0.06	-0.05	-0.6	+0.5	-0.0	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.4	+0.03	+0.02	-0.01	+0.07	+0.02	-0.05	-0.6	+0.5	-0.0	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.1	+0.01	-0.01	-0.02	+0.00	-0.05	-0.05	-0.6	-0.1	-0.0	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：7月はコモンウェルス中銀ゲーム

きょうの注目通貨：USD/JPY→

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Lowe・RBA 総裁補発言	12:00			G20 関連
Costa ポルトガル中銀総裁発言	17:00			
Linde スペイン中銀総裁発言	21:00			
米 1Q GDP・前期比年率・最終推計値	21:30	-1.0%	-1.8%	
米 5月耐久財受注・総合	21:30	+0.6%	-0.1%	
同・コア資本財出荷		-0.4%	+1.0%	GDP 算出に用いられる
同・コア資本財受注		-1.2%	+0.5%	設備投資の先行指標
Weidmann ドイツ連銀総裁発言	22:00			タカ派
米 6月 Markit サービス業 PMI	22:45	58.1	58.0	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は材料が少ない。**米 1Q GDP 最終推計値**が発表され、大幅な下方修正が予想されており、それ自体は悪材料ではあるが、2Q の景気回復も概ね確認されていることから、ドルを持続的に押下げる材料とはならないだろう。耐久財受注も月次の振れが大きく、どちらに振れても米金利やドルに対して持続的な影響を持ちにくいとみられる。こうした中、ドル/円は2月以降の102円を挟んだレンジが続くだろう。

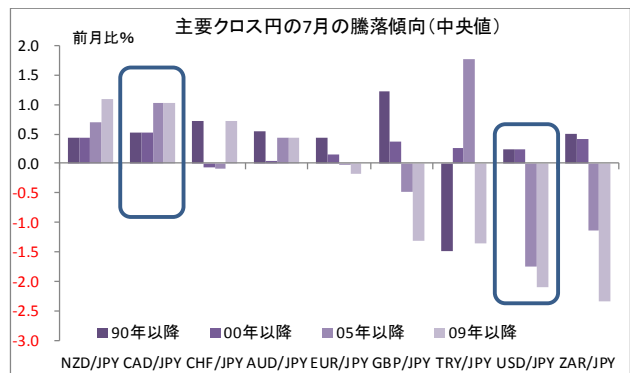
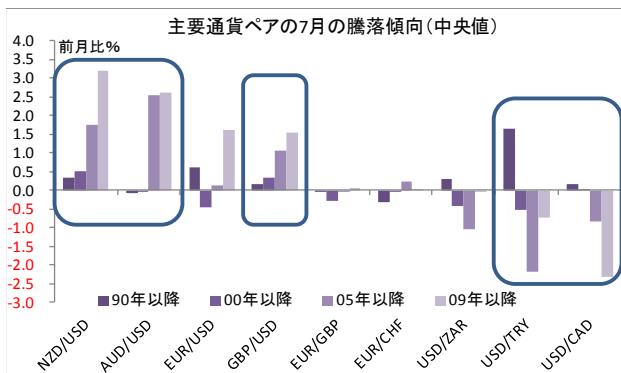
材料難であるため7月の季節性および重要イベントを先取りしてみると、過去のパターンの面からは**カナダドル**が対米ドル、対円で上昇し易いほか、NZ ドル、豪ドル、ポンドやトルコリラが対米ドルで上昇し易い傾向がある(下図を参照)。

カナダドルについて当社は強気ではないが、足許はドル/カナダの下落基調が強まっており、7月16日の**カナダ中銀金融政策決定**まではタカ派化期待が持続する可能性があり、上昇が続くかもしれない。但し、やはりカナダ中銀が米国よりも早期利上げ開始を示唆するようなタカ派への変貌を遂げるとは想定しづらく、ハト派維持が明らかになると、カナダドルは会合後に反落に向かうとみている。

ポンドについて当社は強気を維持しており、7月10日のBoE金融政策委員会は材料にならないが、7月23日の**BoE 議事要旨**で利上げ支持派が何人か出てくる可能性があり、その場合は季節性も手伝って続伸するだろう。

NZ ドルについても、概ね予想通りではあったがRBNZが既に3回連続で利上げを行い、7月24日の**会合**でも追加利上げを行う場合は想定以上に速いペースの利上げであるため、7月中も会合に向けて底堅く推移するかもしれない。とは言え、ニュージーランドの主要輸出品である乳製品の世界価格の下落傾向やNZドルが歴史的な高水準にあり、利上げ(期待)で更にNZドルが上昇する場合には今後の利上げペースが逆に鈍化するリスクが大きく、更なる上昇余地は小さいとみている。

ドル/円は、7月から9月にかけては過去、米10年債利回りと同様に季節的な低下傾向があるため、レンジ相場が崩れるとしたら下方向とみている。但し、最近では米国のインフレ率がじり高傾向となっているため、ドルが下がりにくくなっているのも事実だ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641